

## 2/12 (金) 先輩の分までプレー

昨年11月に行われた県予選を突破し、第39回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会への出場の切符を手に入れた矢板中央高校ソフトボール部が市長を表敬訪問しました。選手らは「コロナ禍で思うように練習できず苦労した。先輩たちの分までプレーしたい」と話していました。同部は昨年の同大会への出場が決まっていたが、新型コロナウイルスの影響で大会が中止となったため、今大会は出場できなかった先輩部員の想いも背負い、3月20日から大田原市で開催された試合に臨みました。



▲(左から)  
・益子主将  
・齋藤市長  
・飯塚副主将

## 2/19 (金) 元気に帰ってきてね

箒川で、豊田小学校4～6年生の児童26人がサケの稚魚約2,600匹を放流しました。これは、児童にサケの生態や自然の大切さを学んでもらおうと「箒川の自然と溪流魚を守る会」と「那珂川北部漁業協同組合」が協力し、毎年行われているもので、児童は放流された稚魚が何年かけて戻るのがかなど説明を受けた後、容器に小分けされた稚魚を川へ放ち、泳いでいく様子を見ていました。児童は「サケが大きく育って元気に帰ってくるためにも、川をきれいに守っていききたい」と話してくれました。



## 2/24 (水) 地域の元気を取り戻す

明治安田生命保険相互会社矢板営業所から、昨年8月に続き本年度2回目の寄附をいただきました。この寄附は、明治安田生命保険が全国で展開している「地域の元気プロジェクト」の一環で行われたもので、いただいた寄附金15万円は新型コロナウイルス感染症対策に活用されます。遠藤所長は「コロナの苦難を乗り越え、地域社会の元気を取り戻せるよう活用してほしい」と話され、齋藤市長は「寄附金を基にワクチン接種など、『いのちを守る』取り組みに活用したい」とお礼の言葉を述べました。



▲(右から)  
・明治安田生命保険相互会社  
遠藤矢板営業所長  
・齋藤市長

## 2/25 (木) みんな学び交流図る

市内全ての小学6年生の教室をウェブ会議システムでつないだ県内初のオンライン合同授業が行われました。これは、本市の「GIGAスクール構想」の実現に向けた柱の一つである遠隔教育の一環で行われたもので、この日は東小学校の西脇教諭が受け持つ学級の児童と、オンラインでつながった他学級の児童を合わせた261人が算数の授業を学びました。西脇教諭は「画像や音声途切れず無事に授業を進めることができほっとした。これを機に他校との交流を活性化していきたい」と話してくれました。



## 2/25 (木) 感謝の思いを込めて

道の駅やいたの管理運営を行う(株)やいた未来から国際医療福祉大学塩谷病院に、市特産品のりんごジュース600本が贈呈されました。これは、新型コロナウイルスの対応で活躍する医療従事者に感謝の気持ちを伝えようと同社が企画したもので、ジュースには「心をこめてありがとう」のオリジナルラベルが貼られています。須田病院長は「さまざまな支援をいただけるからこそコロナ対応に尽力できる。これからも地域に安心安全な医療を提供していきたい」と感謝を述べられました。



▲(左)  
・国際医療福祉大学塩谷病院  
須田病院長  
・(株)やいた未来  
齋藤社長(矢板市長)

## 3/9 (火) はがきで大切さ伝える

(公財)全国法人会総連合女性部会連絡協議会主催の「税に関する絵はがきコンクール」で、矢板小学校6年根本 亜香里さんの作品が、最高賞となる全法連女連協会賞を受賞しました。矢板小学校で行われた受賞伝達式では、県法人会連合会 鈴木女性部会長から根本さんに賞状などが手渡されました。根本さんは「小さなはがきでも見やすいよう、色使いやイラストを工夫した。税金の大切さが多くの人に伝わってもらえたらうれしい」と受賞の感想を話してくれました。



※学年は受賞当時のもの  
※県内応募点数3,045作品  
※関東信越国税局管内での最優秀作品として全国会長賞を受賞しました。

▲(右から)  
・根本 矢板小学校長  
・根本 亜香里さん  
・県法人会連合会  
鈴木女性部会長  
・氏家法人会  
大古女性部会長  
・氏家法人会矢板支部  
新野女性部会長

## 3/10 (水) 新1年生の事故防止に

生涯学習館で、交通安全ランドセルカバーの贈呈式が行われました。これは、4月から小学校に入学する児童が安全に登下校できるよう、矢板地区交通安全協会が毎年実施しているもので、市キャラクター「ともなりくん」が描かれた反射材つきカバーと交通安全教材が市内の新入学児童241人に配付されます。野口会長は「子どもたちの事故防止のために続けている。カバーを付けた子どもたちが、毎日安全に通学して楽しく学校生活を送ってほしい」と話してくれました。



▲(左から)  
・矢板地区交通安全協会  
野口 教夫会長  
・村上教育長

## 3/13 (土) 文化財を火災から守る

木幡神社や矢板武記念館など市内6施設で、矢板消防署や消防団などが参加し、文化施設の消防設備点検などが行われました。これは、全国で文化財防火運動を展開し、文化財愛護に関する意識の高揚を図ることを目的に「文化財防火デー」に合わせて開催を予定していたのですが、新型コロナウイルスの感染拡大のため延期となっていました。消防署員は「乾燥し、風の強い日が多いこの時期は特に火気への注意が必要。貴重な文化財を後世に引き継ぐためにも地域みんなで心掛けてほしい」と話がありました。



※文化財防火デー  
法隆寺金堂壁画が焼失した日(昭和24年)に当たる1月26日を中心に、文化庁、都道府県・市区町村教育委員会などが連携・協力し、全国で運動を展開しています。